

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人 市民社会研究所

1 事業の趣旨・目的

四日市に居住する外国人は総人口の約3%を占め、外国人が集住化する都市となっている。「外国人市民実態調査(2009年、四日市市)」によれば、日本語が十分でないために日本人市民とのコミュニケーションや医療・保険・税金などの行政サービスの情報が得られない不安、現況の雇用情勢の中で、カタコトの日本語しか使えないことによる就職不安を抱いている外国人も少なくない。日本語教室等の活動が実施されているが、日本語ボランティアが慢性的に不足している。このような課題を解決するために、日本語ボランティア養成講座を行う。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
【第1回】 7月10日 13:00～15:00	四日市市 なやプラザ	西牧 義江 永田 真理 小林 春美 和田 明子 坂口 亘弘 浅沼 よし子 藤川 義幸 金 憲裕 小林 範子 松井 真理子	・講座内容の検討	・企画委員の紹介 ・企画内容検討 (目的・対象者・日時・会場・講師・場所等) ・広報の方法 (チラシ配布先、HP、市広報) ・今後の予定の確認

【第2回】 9月2日 16:00～17:15	四日市市 なやぷらザ	西牧 義江 永田 真理 小林 春美 和田 明子 坂口 亘弘 浅沼 よし子 藤川 義幸 金 憲裕 小林 範子 松井 真理子	・講座内容の確認	・受講申込者の状況 ・講座内容の確認 （日時、内容、講師）
【第3回】 11月20日 17:00～18:00	四日市市 なやぷらザ	西牧 義江 永田 真理 小林 春美 和田 明子 坂口 亘弘 浅沼 よし子 藤川 義幸 金 憲裕 小林 範子 松井 真理子	・講座内容の報告	・講座の報告 （受講生の状況、内容） ・アンケート結果

【写真】運営委員会



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 「はじめての日本語ボランティア」
- (2) 養成講座の目標
- 1、はじめて日本語ボランティアに参加する市民のため、日本語指導のスキル習得を目指した講座を実施し、日本語ボランティアの裾野を広げる。
 - 2、講座修了者を地域の日本語教室等の活動に結びつける
- (3) 受講者の総数 26 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 日本国 24人、ベトナム国 1人、ブラジル国 1名)
- (4) 開催時間数(回数) 24 時間 (6 回)
- (5) 参加対象者の要件 日本語ボランティア初心者
- (6) 受講者の募集方法
- * 四日市市広報に掲載
 - * 四日市市地区市民センター等の公共施設におけるチラシ配布
 - * 人財ポケット通信による配布
 - * 四日市市民活動支援センター「四日市市なやプラザ」での広報
 - * 当団体および三重県国際交流財団のホームページ掲載
- (7) 研修会場 四日市市なやプラザ
- (8) 使用した教材・リソース
- ・ 四日市市の外国人市民との共生の取り組みについて
 - ・ みんなの日本語、スーパーキット
 - ・ にほんご宝船
 - ・ にほんご おしゃべりのたね

(9) 講座内容

日時	講座名 / 学習内容	講師	受講者数
【第1回】 9月25日(土) 13:00～17:00	・ オリエンテーション ・ 四日市市の外国人の状況 ・ 先輩ボランティアからのアドバイス	四日市市文化国際課 係長 永田 真理 先輩ボランティア 船橋 利男 秋月 享 浅沼 よし子 坂口 亘弘	22名
【第2回】 9月11日(土) 13:00～17:00	外国人が学ぶ日本語の基本的な体系 (文字・聞く・話す・読む・書く) ・ 文章を要約する ・ 文章を読み取り、図や絵で表現する ・ ボランティア体験談	四日市大学客員教授 西牧 義江	21名

【第3回】 10月9日(土) 13:00～17:00	・日本語の教え方の基本 動詞の法則、ルール分け なにが違う？ (場面・言い方・表現で意味が かわる)	アームズ日本語学校 教務主任 和田明子 西笹川中学校 非常勤講師 石川節子 鈴鹿国際大学 非常勤講師 曽根由香里 トライント外語専門学校 非常勤講師 渡辺富紀子 鈴鹿国際大学 非常勤講師 谷垣映子	18名
【第4回】 10月23日(土) 13:00～17:00	・日本語の教え方の基本 「生年月日、住所」どう説明する (グループワーク)授業の導入の仕方 なにを使って教えるの？	アームズ日本語学校 教務主任 和田明子 西笹川中学校 非常勤講師 石川節子 鈴鹿国際大学 非常勤講師 曽根由香里 トライント外語専門学校 非常勤講師 渡辺富紀子 鈴鹿国際大学 非常勤講師 谷垣映子	19名
【第5回】 11月6日(土) 13:00～17:00	・日本語の教え方の基本 「授業の流れ」説明 (グループワーク)第6回体験授業の 準備	アームズ日本語学校 教務主任 和田明子 西笹川中学校 非常勤講師 石川節子 鈴鹿国際大学 非常勤講師 曽根由香里 トライント外語専門学校 非常勤講師 渡辺富紀子 鈴鹿国際大学 非常勤講師 谷垣映子	15名
【第6回】 11月20日(土) 13:00～17:00	・体験授業(教室形式) ・体験授業フィードバック ・修了式(修了証授与)	アームズ日本語学校 教務主任 和田明子 西笹川中学校 非常勤講師 石川節子 鈴鹿国際大学 非常勤講師 曽根由香里 トライント外語専門学校 非常勤講師 渡辺富紀子 体験学習(外国人) ヒ・アジ・ヨイ チャン・ロック チュン ハ・ウロ ヒロシ キシモト	16名



授業の様子



外国人学習者を招いての授業体験

(10) 講座の評価

受講生に対するアンケート

【全体を通して】

- ・グループディスカッションがよかった。意見発表する場面も多かったので、自己表現などの面でも自信が持てました。
- ・社会的背景や文化の違う人々とのコミュニケーションのとり方を心して、付き合っていくことの大切さを理解することができました。
- ・具体的場面、具体例に沿った授業で、楽しくわかりやすく勉強できました。
- ・やはり体験授業が良かったです。とても勉強になりました。

【講師について】

- ・先輩ボランティアの話はとても参考になり、ボランティア活動の具体的なイメージがよくわかりました。
- ・西牧先生の笑いあり、熱意ありの迫力の講義がとても印象に残りました。先生の活気が伝わり、積極的に授業に参加できました。
- ・先生方はユーモアも交えて、とてもわかりやすく教えていただきました。

【行政等の取り組みについて】

- ・四日市市での在住外国人のおかれている状況などが理解できた。

実施主体からの研修内容結果評価

四日市国際交流センターで活躍する先輩ボランティアから活動内容や体験談を話してもらったことで、具体的な場面のイメージをつかんでもらうことができ、ボランティアをやりたいという意欲向上につながった。

授業の進め方や、実践に沿った講義は実際に教えている姿がイメージしやすく、日本語指導のヒントがわかったと受講生に好評であった。

また、外国人学習者を招いての体験授業では、直接外国人と接したことで指導に対する不安が取り除かれ、日本語ボランティアとしての自信を与えることができた。

実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・外国人集住地域の外国人の子どもに対し、日本の文化や生活習慣を含めた日本語指導と宿題の手伝いを兼ねたアフタースクールの支援
- ・外国籍の子どもが通う学校、自治会、外国人の地域リーダーや日本語ボランティアを交えた日本語教室への取り組み
- ・外国人生徒の保護者向け日本語講座
- ・学校で外国人生徒に日本語指導をする教師や、適応指導員を対象とした日本語の指導講座

(11) 事業の成果

他事業との連携

【人財ポケットよっかいち】

四日市市のまちづくり人材マッチング事業に位置づけられた社会貢献型人材バンク「人財ポケットよっかいち」と連携することにより、地域の外国人のための日本語指導への意欲と能力をもつ人材の掘り起こしや、養成した人材の効果的な派遣が可能。

【四日市市・四日市国際交流センターが行う諸事業との連携】

四日市市が実施しているアフタースクールや四日市国際交流センターへの日本語支援、および交流会やイベントなどのお手伝い。

研修後の人材活用

- ・四日市市内のさまざまな日本語サークルに登録し、外国人の日本語教育の場に参加していただく。

四日市国際交流センター：3名、くすのき日本語教室：1名

国際共生サロン：1名、 ささえだーで教室：1名

- ・「人財ポケットよっかいち」に登録していただき、地域・行政・企業・学校等から寄せられる外国人に対する日本語指導やイベントなどのニーズに対応。

笹川アフタースクールで、外国籍の小中学生に日本語指導：3名

- ・外国人と地域住民とのつなぎ役として、日本文化、生活習慣の指導および交流のお手伝いをしていただく。

四日市国際交流センターで、Winter Party のお手伝い：2名

(12) 今後の課題

日本語能力試験や資格取得を目的とした学習者に対して、文法を中心にテキストを使った体系的な学習プログラムを構築する。

初歩の学習者に対し、経験の少ないボランティアが母国語を使わず、日本語だけで指導するのはかなり難しいため、その場合の使用教材やカリキュラム等の指導プログラムを検討する。

ボランティアをはじめてしばらくすると、指導法などさまざまな問題に直面し、戸惑うことも多いため、問題解決のためのフォローアップ講座の実施。

各日本語サークルおよびボランティア同士のネットワークをつくる。

目指せ 日本語ボランティア

中日新聞 2010.9.12

育成講座スタート

四日市 先輩も体験談紹介



白らの体験を紹介する先輩ボランティアたち＝四日市市蔵町で

日系ブラジル人をはじめ多くの外国人の住む四日市市で、日本語を教えるボランティアを育成する連続講座「はじめての日本語ボランティア」が十一日、同市蔵町のなやブラザで始まった。「外国人と交流したい」「知り合いの外国人に日本語を教えたい」。さまざまな目的を持った人たちが集まった。

(加藤健人)

参加者は、市内外の男女計一十六人。いずれも日本語を教えた体験のない。初心者ばかりだ。十一日午までの全六回で、日本語教師から、話しやすい環境の作り方や、相手の文化や歴史を踏まえた指導のポイントなどを学ぶ。最終回には、外国人を招いて授業体験もする。

この日は、四日市国際交流センターで活躍する先輩ボランティアが、参加者の不安を取り除こうと、白らの体験を紹介。「外国人の熱心さに心を打たれて始めた」というきっかけや、「日本人にはない考え方や視点を学べる」と話した。

講座は同市のNPO法人「市民社会研究所」が、日本語ボラン

ティアのすそ野を広げ「を受けて四日前から開」
ようと、文化庁の委託「いている。」

2010年9月12日 中日新聞に掲載